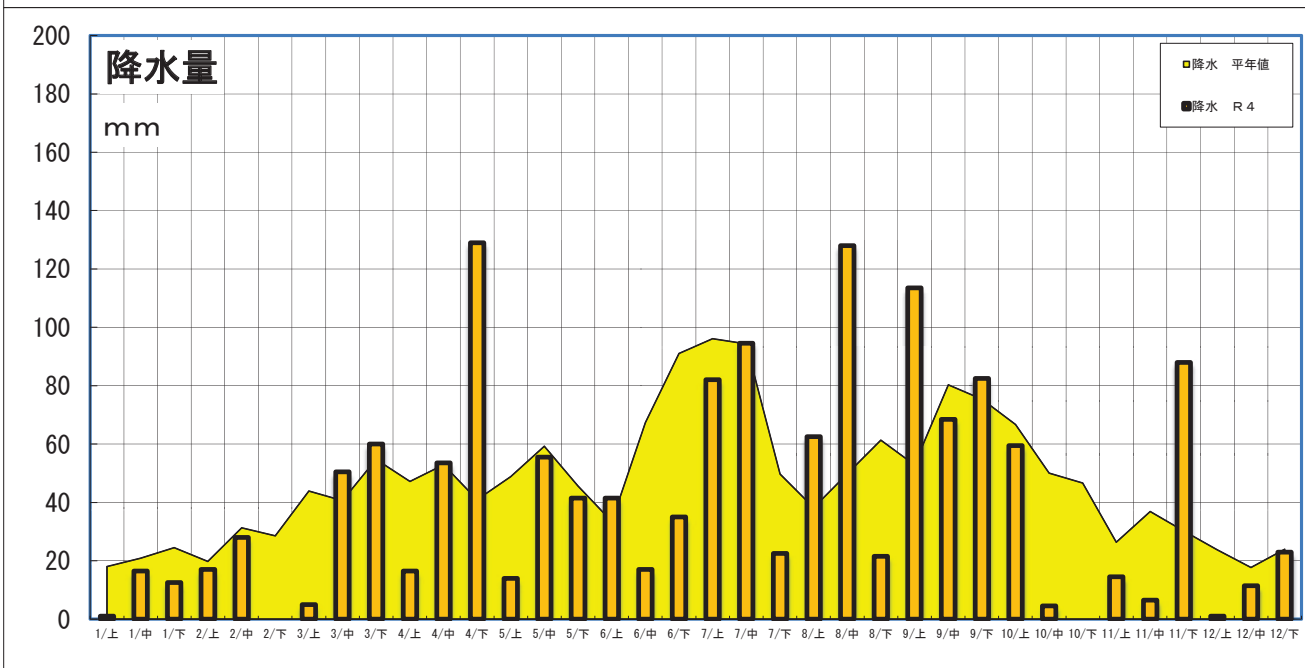
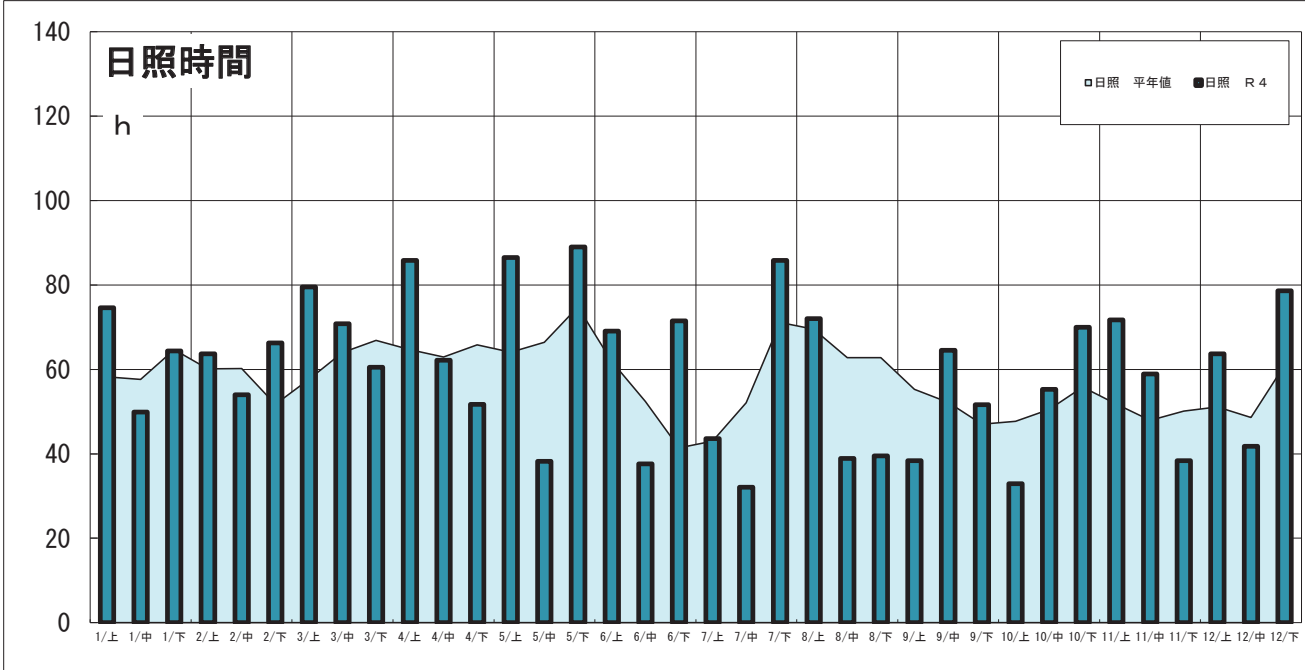
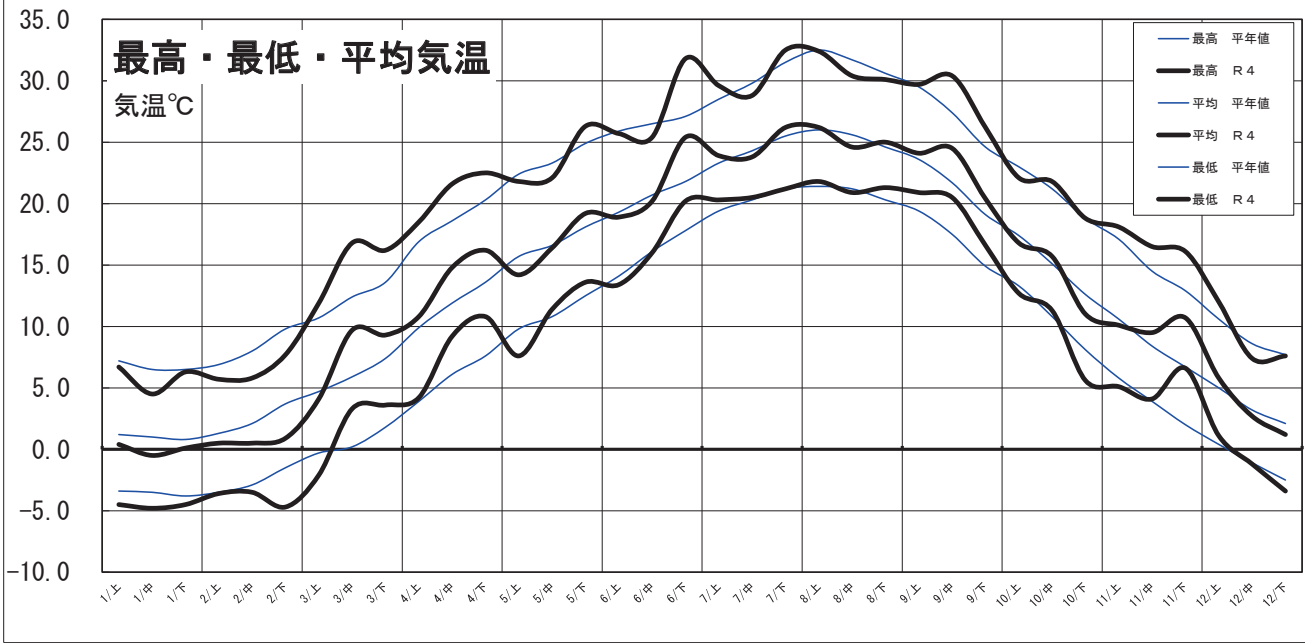


# 令和4年気象表

観測点：長野県飯田

南信州農業農村支援センター



## 令和4年度気象災害の発生状況

### ■凍霜害

本年は霜注意報は36回発表されたが、大きな被害は発生しなかった。4月14日～30日にかけて低温及び降雨が続き、全域でなし、りんごなどの結実不良が発生した。この17日間で受粉に適した条件を満たした日は、4月19日、20日、23日、25日、28日の5日しかなかった。特に4月14日～18日に開花期を迎えた「南水」では、結実不良が顕著だった。

### ■豪雨及び長雨

災害につながる豪雨はなかったが、8月中旬から9月上旬の降雨により、ぶどう「ナガノパープル」の裂果や、果実全般の糖度低下などがみられた。また、りんごでは褐斑病や炭疽病の発生がみられた。

### ■高温及び干ばつ

6月下旬から9月中旬の3か月間は最高気温の平均値が概ね30℃を超え、高温の期間が長かった。

6月中旬から9月上旬までは、乾燥と降雨の繰り返しとなり、果樹では土壌の乾湿の変動が大きくなり、その影響でりんご「シナノリップ」やなし「南水」では収穫期前落果が発生したと考えられる。

### ■ひょう害・台風

大きな被害につながる雹害はなかった。

9月19、20日の台風14号の接近で、飯田では12時40分頃に最大瞬間風速14.3m、台風通過後の吹き戻しで午前8時40分に最大瞬間風速14.2mを計測した。この強風でりんご高密度植栽培園の倒伏、ブドウ棚の倒壊などの被害が発生した。

### ■雪害・寒害

2月10日に18cmの積雪となり管内で雪害が発生した。管内の7市町村で、122棟のハウスが倒壊し、3,196万円の被害となった。幸い農作物の被害は見られなかったが、被害件数が多かったことから、被害農業者相談窓口を設置し、雪害を受けた

農業者への対応に当たった。

### ■今後の対策

凍霜害をはじめ、気象災害による農作物への被害が毎年発生している。このため、市町村や出荷団体と連携し、災害に対する予防策などの情報提供を積極的に実施するほか、しゅうにゅう保険制度などへの加入推進により、災害に強い産地作りに努めたい。

### ■気象・技術対策の技術情報

月 日	技術情報の内容
3月29日	低温・凍霜害に対する農作物等の技術対策
4月14日	低温・凍霜害に対する農作物等の技術対策
6月27日	高温時における農作物・家畜類等の栽培・飼養管理技術
8月12日	台風第8号の接近に伴う技術対策
9月2日	台風第11号の接近に伴う技術対策
9月16日	台風第14号の接近に伴う技術対策
9月21日	台風第14号の被害に対する農作物の技術対策
9月22日	熱帯低気圧から変わる台風の接近に伴う技術対策
12月23日	雪害及び寒害に伴う農作物等の被害防止対策
1月23日	雪害及び寒害に伴う農作物等の被害防止対策
2月9日	雪害に伴う農作物等の被害防止対策



台風14号によるブドウ棚の倒壊

(技術経営係:山近 龍浩)

## 問題となった技術事項と その対策（作物）

### ■水稲

#### 1 育苗～本田初期

5月25日以降の田植えでは、日照不足と低温の影響により初期生育が停滞した。

#### 2 幼穂形成期～登熟期

##### (1) いもち病の発生

7月中旬から管内全域で葉いもちが発生し、一部でずり込みが見られるなど広範囲で問題となった。出穂期以降も、ほぼ連日のように降雨があり、穂いもちが多発した。

葉いもちの本田防除と粒剤による穂いもちの予防防除を徹底する。

##### (2) 斑点米カメムシ類の発生

管内全域で大型の斑点米カメムシ類が確認されていることから、液剤による適期防除を励行する。

#### 3 収量・品質

##### (1) くず米、胴割れ米の発生

穂いもちの多発により、くず米が多くなった。また、刈り遅れとなり胴割れ米が多くなった。

いもち病防除を徹底するとともに、コンバインオペレーターを確保して適期収穫を行う。

##### (2) 斑点米の発生

大型の斑点米カメムシ類の発生により、全域で斑点米が発生し玄米品質が低下した。農業用ドローンによる集団防除への取り組みを進める。

### ■大豆

8月以降、多雨寡照となり倒伏が発生し、極端に実入りが悪くなった。また、収穫時の雑草混入による汚粒が発生した。薬剤散布や耕種防除により雑草を防除する。

### ■そば

開花期に降雨が連続したため訪花昆虫が少なく、平均単収が49kg/10aと低くなった。

(技術経営係：木下 雅仁)

## 問題となった技術事項と その対策（果樹）

### ■全般

令和3年夏の多雨による湿害の影響で、4月にりんごやなしなど幅広い樹種で凍害が発生した。また、開花期の低温・降雨により「南水」や「ふじ」で結実不良となった。8月中旬から9月上旬の多雨、日照不足により9月に収穫となる果実では裂果発生や糖度低下、果実硬度低下がみられた。

### ■品目別の問題事項と対策

#### 1 りんご

開花期の低温により、「ふじ」では中心果の結実不足が見られた。昨年度よりは発生が少なかったものの、盆以降の降雨により炭疽病、褐斑病の発生が目立つ状況となった。

#### 2 なし

「南水」開花期の低温により、標高600m台の地域を中心に結実不足となる園が見られた。3年連続での結実不良であり、受粉用品種の見直しなどの対策が必要と考えられる。

#### 3 ぶどう

「ナガノパープル」では、盆以降の長雨により裂果が多発し収量減となる園が見られた。「シャインマスカット」では低糖度の果房が多く、日照不足や着房過多が原因と考えられた。

#### 4 もも

モモせん孔細菌病は、り病枝のせん除の取り組みの効果により、発生は減少傾向である。引き続きせん除の徹底を指導する。

#### 5 市田柿

盆明け後の多雨と、9月以降の定期的な降雨により、条紋発生が非常に多かった。条紋は果実軟化につながるため、収穫期の前進や干し柿品質の低下など大きな影響があった。これまであまり問題となっていなかった黒星病や炭疽病の発生園が増加傾向にあり、今後も注意が必要である。

(技術経営係：山近 龍浩)

## 問題となった技術事項と その対策（野菜）

### ■主な品目別事項

**1 野菜全般**：野菜の作柄に及ぼした影響が最も大きかった6月下旬の高温と8月中旬の連続降雨と日照不足を中心に特徴的な事項を記述する。

**2 きゅうり**：露地作型を中心に炭疽病やつる枯病、べと病などが一気に進展し、9月を前に収穫を打ち切ったほ場も多かった。長雨時は雨間を縫って薬剤散布を推進したほか、カットブレーカーを活用した排水対策に取り組んだ。根本的には雨よけ栽培の推進を今後も図って行く。

**3 トマト**：コナジラミ類の発生拡大が確認された。0.4 mm目合いの防虫ネットを設置した他、収穫終了から次作の間を10日程取り、ハウス内に餌のない期間を置くことで低減対策を実践した。

**4 ピーマン類**：春先からアザミウマ類が発生し、INSVの被害も散見された。薬剤散布を推進。

**5 なす**：秋口にオオタバコガによる果実食害が発生した。令和5年度は支援センターで行うフェロモントラップ調査結果を共有する。

**6 いちご**：冬春いちごでは、炭疽病などが発生した。通路にパレットを配置する等、育苗時のハウス内環境の改善を提案した。夏秋作型の親株では地上部と地下部のアンバランスから萎れ株の発生が目立ち、摘葉等の提案を行った。

**7 アスパラガス**：アザミウマ類による食害が発生した。効果のある薬剤を選択するよう提案した。

**8 ねぎ**：7月より大雨後に軟腐病及び湿害の発生が散見された。湿害対策は根本的に耕盤破碎と石の除去が必要であり、処理が困難と思われる。軟腐病はほ場を変えることを提案した。

### ■今後の課題と対応

病虫害や連作障害対策の確立に向け、薬剤散布だけでなく、排水対策を中心とした栽培環境整備や耕種的手法も組み合わせた総合的な観点から取り組む。  
(技術経営係：吉川 昭)

## 問題となった技術事項と その対策（菌茸）

### ■菌茸全般

近年のきのこ経営は、販売価格が長期低迷する一方で、培地及び包装資材の高騰や電気料金の値上げによるコストが上昇しており、非常に厳しい経営環境が続いている。このため、廃業を強いられている農家がある。農家は現状でやるべきことをやっているが、それでも限界があり、企業努力の域を超えているのが実情である。

### ■今後の課題と対応

環境が厳しい中でもやるべきことは継続しなければならない。経営安定には、ロスビン率を低く抑え、生産を安定させる他、費用の低減が重要であるため、以下の対応を行っていく。

#### 1 害菌害虫調査

ロスビン率の低下には施設内の状況把握が肝心であるため、害菌対策として、寒天培地を用いた落下菌調査や拭き取り調査を実施し、どの工程に汚染リスクがあるのか確認する。その調査結果に基づき対策を講じる。

また、害虫についても同様に、寒天培地を用いたダニトラップによる発生調査やキノコバエ類の発生予察調査及び侵入経路の特定により、被害を最低限に抑えるよう努める。

#### 2 培地資材の見直し

現在、ブナシメジにおいて新品種が開発され、農家に導入され始めている。新品種の特徴は、収量性があり、短期培養が可能なことである。

南信州管内の出荷規格は、株出荷が主流であるため、品質が安定すれば収量は一定で良い。そこで、現行の培地組成を見直し、1ビン当たりの使用資材を減らすことで一定の収量を取りつつコスト低減を図る。

また、未利用資源の有効活用として、南信州地域で課題となっている竹をパウダー状にし、培地組成に組み込み栽培試験を実施する。

(地域第三係：坂口 冬樹)

## 問題となった技術事項と その対策（花き）

### ■全般

新型コロナウイルスの発生により低迷したブライダルやイベント等の業務需要は、感染拡大防止対策を講じる中で、徐々に催事の機会が増えつつあるが、各催事における花の使用量は少なく、従来にも増して実需者ニーズに対応した花き生産が必要になっている。このため、需要に即した新品种の検討や商品性向上対策に取り組んだ。

### ■品目別の問題事項と対策

#### 1 カーネーション

高温や日照不足による品質低下や立枯病の発生が多く収量減につながった。高温時の品質低下への対応として、簡易冷房システムの効果を再確認した。あわせて殺ダニ剤の簡易検定を実施し生産者団体へ情報提供した。

#### 2 鉢花（シクラメン）

9月の長雨期間中に一部のほ場で *Fusarium* が原因とみられる萎凋病が発生した。また、突風害と雪害によるハウスの倒壊が発生した。

#### 3 ダリア

例年問題となる高温障害や欠株の他に、定植後の灌水不足による生育遅延といった灌水量に起因する課題が散見された。みどりクラウドのお試し設置は非常に好評だったが、高額な導入経費に費用対効果を疑問視する声も聞かれた。

#### 4 花木

スノーボールの新梢に対する虫害やユーカリの炭疽等の病害が徐々に拡大し始めている。今年度はそれらの事後対策を中心に実施した。

### ■今後の課題と対応

本年の対応から課題を整理し必要な対策を関係機関と検討し、導き出された対応策を次年度実施していく。

(地域第三係：中村 武郎)

## 問題となった技術事項と その対策（畜産）

### ■全般

飼料・資材の高騰が続き、自給飼料の生産基盤を持たない大家畜農家、購入飼料に依存する中小家畜農家にとっては経営を大きく圧迫される厳しい状況が続いている。

### ■家畜

#### 1 酪農

生乳の消費減に伴う需給調整が行われ、子牛価格も安く収入が減少した。加えて、飼料高騰により良質な飼料が入手困難となったことから、夏以降栄養不足に起因する乳量・繁殖成績の低下が見られる牧場が増えている。家畜保健衛生所とともに牛群ドック、繁殖検診等を実施し各農家に適した対応策を提案しているが状況の改善は難しい。

#### 2 肉用牛

外食需要の減少が影響し総体的に牛肉価格は厳しい状況にあった。飼料関係は酪農と同様であり、加えて家畜市場における子牛価格が下落傾向のため繁殖経営も収入減となった。繁殖和牛農家向けには子牛育成指導や代謝プロファイルテストに基づく飼料給与診断を実施し、地域内一貫体制のレベルアップを図っている。

#### 3 養豚・養鶏

豚肉・鶏肉価格は堅調に推移したが、鶏卵は全国で高病原性鳥インフルエンザが相次いで発生していることから最高値の更新が続いている。

豚熱、高病原性鳥インフルエンザの感染リスクは依然高く、最大限の警戒が必要となっている。

### ■飼料生産

自給飼料のとうもろこし及びソルガムは、台風による倒伏等も見られず概ね生育は良好であったが、一部雑草害の著しいほ場が見られた。配合飼料や輸入粗飼料の価格は高水準で推移し、中でも輸入粗飼料が不足し価格高騰を招いていることから、稲 WCS や稲わらの利用等自給飼料の増産が喫緊の課題となっている。

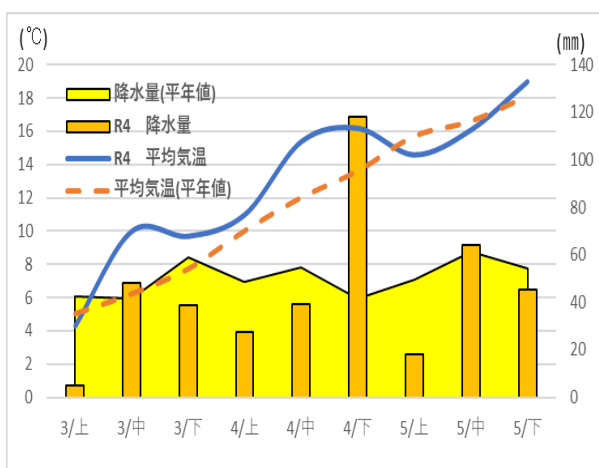
(地域第二係：清水伸也)

## 問題となった技術事項と その他の対策（特用作物）

### ■茶

3月中旬から気温が高く推移したことにより、平年に比べ萌芽は2日早かった。

摘採開始当初は、芽が少ないことから収量が少ないのではと心配されていたが、4月下旬の気温が高く降水量が比較的多かったため、終盤にはJAの受入量は前年程度（生葉30t）となった。また、5月上旬の低温により芽の生育が停滞し、その後芽の伸長を待ったが伸長せず、生育が進んだことにより硬い芽となり品質が低下した。一方で、収量確保のために指導摘採位置より下から刈ってしまい、品質の悪い芽を摘採した農家が多くみられた。



令和4年の飯田市南信濃地域の気象表

### ■今後の課題と対応

生産者自ら茶園の状況を把握し、芽の生育に応じた栽培管理、適期摘採ができるよう長野県茶振興協議会普及部会にて茶栽培管理暦の見直しやわかりやすい栽培講習会を実施する。

本取り組みは、中山間地域農業新需要創出事業を活用している。

(地域第二係：堀 琴音)

## 農薬等普及展示ほの設置

### ■背景とねらい

地域における農作物の病害虫・雑草等に関わる課題解決と新技術の迅速で効果的な普及を図るため、農薬等普及展示ほを設置し、新たに普及に移された農業技術と今後普及技術として取り上げられる見込みの技術等の実用性の確認を行っている。

また、農薬等普及展示事業は、農業技術普及の一環として位置づけられるものであり、(一社)長野県植物防疫協会と連携して実施している。

令和4年度は管内で8剤を試験し、効果を確認した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 殺菌剤

近年薬剤の効力低下が問題となっているナシ黒星病や、キュウリ炭そ病に対する2剤の効果を確認した。また、リンゴ褐斑病の効果を補助する展着剤の試験を実施した。

#### 2 殺虫剤

トマトのコナジラミ類に対する1剤の効果を確認した。

#### 3 除草剤

水田雑草の防除について、省力効果の高い豆粒剤など4剤の効果を確認した。

### ■今後の課題と対応

現地では、過去には問題とならなかった病害虫が気象条件等により顕在化することや、新たな病害虫の発生が問題となっている。

次年度以降も、現場のニーズに合わせて、必要な薬剤の効果を確認し、実証するための農薬等普及展示ほを設置して効果を確認する。

(技術経営係：山近龍浩)

## 農薬試験展示ほ設置課題一覧

薬剤名	剤区分	対象作物	対照病害虫・雑草
ニマイバー水和剤	殺菌剤	キュウリ	炭疽病
ミギワ 20フロアブル	殺菌剤	ナシ	黒星病
ドライバー	展着剤 (殺菌剤)	リンゴ	褐斑病
ベリマークSC	殺虫剤	トマト	コナジラミ類
アカツキ豆つぶ 250	水田除草剤	水稻	雑草
アイリキZフロアブル	水田除草剤	水稻	雑草
サキガケ楽粒	水田除草剤	水稻	雑草
(シグナス1キロ粒剤→) ウィードコア1キロ粒剤	水田除草剤	水稻	雑草

## 管内優良表彰受賞者一覧（知事賞以上）

表彰の名称	賞の名称	氏名	表彰内容
第72回 下伊那子山羊共進会	知事賞	伊豆 より夏（阿南町）	雄子山羊の部
第49回 長野県茶の共進会	知事賞	大和 和弘（飯田市）	普通煎茶
第44回 飯田花卉組合品評会	知事賞	村澤 俊彦（飯田市）	カーネーション （イエローカスタード）
第48回 和牛繁殖技術共励会	知事賞	伊藤 公雄（飯田市）	和牛繁殖技術
第45回 信州きのこと祭り 長野県きのこと品評会	知事賞	伊藤 琢水（下條村）	ぶなしめじ部
地域発 元気づくり支援金 令和3年度優良事例表彰	知事賞	市田柿活性化推進 協議会	地域ブランド「市田柿」 の発信による地域活性化



令和4年度 南信州農業農村支援センター 技術経営普及課・阿南支所 業務分担

区分	職名	氏名	内線	担当項目 担当市町村	担当業務
	所長	佐々木直人	2470		所総括
	技術経営普及課長	牧島 正広	2471		課総括、職員研修、農振協、表彰事業
技術経営係	専門幹兼 技術経営係長	吉川 昭	2492	野菜	係総括、生育情報、重点課題(きゅうり)総括
	担当係長	山近 龍浩	2493	果樹・病害虫	災害対策(正)、植物防疫、農薬相談員、情報(副)
	主幹普及指導員	木下 雅仁	2483	作物・担い手	農業経営士、災害対策(副)、農作業安全 遊休農地対策、農作物種子(副)、スマート農業
	主幹普及指導員	池浦 毅	2493	担い手	PALネットながの、農業士、農村生活マスター(正)、農村女性ネットワーク(正)、女性団体地区連携会議、農業女子、土壌肥料 カイゼン(正)、鳥獣害対策(副)
	普及指導員	片桐 直樹	2483	担い手	就農支援、スキルアップセミナー、帰農塾
地域第一係	専門幹兼 地域第一係長	木下 倫信	2415	松川町・大鹿村	係総括、人・農地プラン、北部農業改良協議会 重点課題(日本なし)総括
	普及指導員	倉科 妙香	2416	豊丘村・喬木村	農薬相談員、実績集
	技師	西川 侑宏	2416	高森町・喬木村	農作物種子(正)、情報(正)
地域第二係	課長補佐兼 地域第二係長	清水 伸也	2411	飯田市・畜産 経営	係総括、資金、地域内連携 農業経営者総合サポート事業
	技師	堀 琴音	2413	飯田市・特作	マーケティング、中山間地域農業新需要創出事業 カイゼン(副)
	技師	内田 牧歩	2413	飯田市	かたつむりの会
地域第三係	専門幹兼 地域第三係長	中村 武郎	2411	阿智村・花き	係総括、6次産業化、直売所、普及計画
	技師	坂口 冬樹	2412	阿智村・菌茸 環境	GAP
	技師	浅見茉由子	2412	平谷村・根羽村	活動記録
阿南支所	副参事兼 支所長	檜山 岳彦	0260- 22- 3199	阿南町	支所総括、阿南地区農業改良協議会 茶振協技術普及部会
	専門幹兼 担当係長	原田 広己		泰阜村	農村生活マスター(西南部)、農村女性ネットワーク(南部) 鳥獣害対策(正)
	主幹普及指導員	高橋 博久		下條村	地消地産、食育、グリーン・ツーリズム
	主任普及指導員	西嶋 秀雄		売木村・天龍村	農薬相談員

発行 令和5年3月

長野県南信州農業農村支援センター 技術経営普及課

〒395-0034 長野県飯田市追手町2丁目678 飯田合同庁舎内

電話 0265-53-0436 ファックス 0265-53-1629

Mail [minami-aec@pref.nagano.lg.jp](mailto:minami-aec@pref.nagano.lg.jp)

長野県南信州農業農村支援センター 阿南支所

〒399-1511 長野県下伊那郡阿南町東条58-1 阿南町役場内

電話 0260-22-3199 ファックス 0260-22-2606